

ムギ類うどんこ病情報第1号

令和2年4月30日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

複数地域のコムギほ場でうどんこ病が多発！

1 ムギ類うどんこ病の発生状況

4月下旬に県内20ほ場で行った巡回調査において、発病茎率の平均値は17.5%（平成3.2%）で、過去10年では令和元年度に次いで2番目に高い状況です。特に安城市、豊田市、西尾市のコムギほ場での発病茎率が高く、発病茎率は安城市で49.0%（2地点4ほ場の平均値）、豊田市で10.3%（3地点6ほ場の平均値）西尾市で23.0%（2地点4ほ場の平均値）でした。また、一部ほ場では、上位葉や穂への病斑の進展が確認されました。

2 うどんこ病の生態と被害状況

うどんこ病の白いカビはやや乾いているときに多く形成され、風で飛散して付近に伝染します。この病斑は下葉から発生し、しだいに上位葉に移ります。罹病葉は早く枯れあがり、葉鞘、茎、穂に進展すると稔実が悪くなるので、多いときは30%くらいの減収になります。

3 防除対策

発生初期は下葉から病斑が現れるので、株元まで薬剤が到達するように散布する必要があります。下葉に病斑が現れていないかほ場をよく確認し、うどんこ病が発生しているほ場では、下表を参考に防除しましょう。うどんこ病に適用がある薬剤の多くは、ムギ類赤かび病にも適用があります。今作、すでに使用した薬剤は避け、FRACコードを考慮し、作用機構が異なる薬剤を選定しましょう。

表 小麦におけるうどんこ病の主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	FRACコード
麦類	パンチョTF顆粒水和剤	収穫14日前まで	2回以内	U6, 3
	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	3
小麦	ストロビーフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	11
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	3
	チルト乳剤25	収穫3日前まで	3回以内	3
	プロパティフロアブル	収穫3日前まで	3回以内	50

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

3：DMI殺菌剤　11：QoI殺菌剤　50：ベンゾイルピリジン　U6：フェニルアセトアミド
FRACコードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code_pdf01.pdfを参照する。
薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。